

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	大山 一樹 （ おおやま かずき ）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	博士後期課程 3 年
発表年月 または事業開催年月	2025 年 8 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会第 51 回大会
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	大山一樹, 高岡真麻里, 長塚駿介, 嶋田洋徳
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	労働者における認知行動的特徴の差異による心理的柔軟性が職務パフォーマンスに及ぼす影響
発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。）	
【目的】 本研究では、労働者の状態像の差異によって、心理的柔軟性が職務パフォーマンスに及ぼす影響について検討することを目的とする。 【方法】 研究協力者 労働者 202 名（男性 58 名、女性 142 名、その他 2 名、平均年齢 44.0±12.7 歳） 測度 (a) デモグラフィック項目（年齢、性別、業種、職種、雇用形態、所定時間、時間外労働）、(b) ワーク・エンゲイジメント：UWES-J (Shimazu et al., 2008)、(c) ワーカホリズム：DUWAS 日本語版 (Schaufeli et al., 2009)、(d) バーンアウト：BAT-J (Sakakibara et al., 2020)、(e) 職務パフォーマンス：文脈的パフォーマンス (池田・古川, 2008)、(f) アクセプトランスと脱フュージョン：APQ (嶋他, 2017)、(g) プロセスとしての自己と文脈としての自己：TSSQ (本研究においては、下位尺度の「自分自身の私的出来事と距離をおく視点取り」、「今、この瞬間への気づき」を使用) (柳原他, 2015)、(h) 価値のづけとコミットメント：VCQ (齋藤他, 2017)。 本研究は「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」の承認を得て実施された（承認番号：2024-046）。 【結果・考察】 UWES-J、DUWAS、BAT-J を独立変数、文脈的パフォーマンスを従属変数とする重回帰分析を行った。その結果、UWES-J、DUWAS、BAT-J の主効果 (UWES-J: $\beta = .42, p < .001, R^2 = .37$, DUWAS: $\beta = .24, p = .003, R^2 = .37$, BAT-J: $\beta = -.20, p = .009, R^2 = .37$) と、UWES-J と BAT-J の交互作用 ($\beta = -.15, p = .021, R^2 = .37$) が有意であった。UWES-J、DUWAS、BAT-J を用いて、クラスター分析 (Ward 法) を行った結果、リラックス群、ワーク・エンゲイジメント/ワーカホリズム混合高群、ワーク・エンゲイジメント群、ワーカホリズム群、ワーク・エンゲイジメント/ワーカホリズム混合低群、バーンアウト群の 6 群に分類できると判断された。以上のことから、仕事に対して熱意的であることや強迫的であることは職務パフォーマンス向上に寄与し、強い疲労感を得ていることは職務パフォーマンスの低下や、仕事に対する態度によって、異なる状態像が存在することが示された。	

※無断転載禁止